

# 世代を超え、ふるさと鮎原の絆をつなぐ伝統芸能「だんじり唄」

## 兵庫県洲本市

活動名

鮎原小学校学校支援地域本部

関係する学校

鮎原小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	コーディネーター	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	コミュニティスクール	実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携		
		指定日			委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要・経緯

3年生の「総合的な学習の時間」において、地元で歌い継がれている「だんじり唄」について実体験を通して学び、各世代間の交流の中から生きる力を育むことを趣旨としてスタートした。4月に、4年生が河上神社春季大祭及びだんじり唄コンクールへ向けての練習をしている様子を見学する所から始まり、だんじり唄の継承者である木下勝也氏を中心とした地域ボランティアの方々に講師をお願いし、2学期から週2時間本格的な練習に取り組む。3学期に行われる学習発表参観での全校生や保護者に向けての発表を初舞台とし、次年度にあるだんじり唄コンクールや河上神社春季大祭への出場を目標としている。また、3年生の授業の中で学んだことを発展・継続し、だんじり唄に興味のある児童が集まり、クラブ活動として放課後に練習を行っている活動グループとして「若鮎会」がある。毎年春に募集をかけ、今年は1年生から6年生までの計24名の児童が活動している。講師は、3年生と同様に、木下勝也氏をお願いしている。毎年、春に行われるだんじり唄コンクール及び河上神社春季大祭の出場を目標としている。また、鮎原地域や島内各地の要望や各種団体からの要請に学校も協力し、児童が出演可能なものについて、年間を通して出演している。活動を通じて、児童はだんじり唄だけでなく地域のシンボルでもある河上神社や白楽城を誇りに思い、文化についても学んでいる。実際、現地に足を運んだり保護者で市教育委員会の文化財担当者から話を聞いたりして、歴史的な背景や地形・自然についても学習を深めている。地域を大切に、後世へつないでいこうとする姿勢は、地域の方々の清掃活動等、日々の取組が児童の手本となっている面が大きい。ふるさと鮎原を愛し、守っていく気持ちが世代を超え継続的に育まれていくことを地域をあげて願っている。

### 特徴

#### 【特徴的な活動内容】

3年生では、週2時間、「総合的な学習の時間」の中で、だんじり唄に取り組んでいる。最初に、4年生から直接教えてもらい全体練習を行った後、個別にパート練習を行っている。唄の歌詞だけを読んで覚えるといった練習ではなく、節や歌詞を耳で聞きながら実際に唄い込むことで、呼吸法やだんじり唄そのものを習得している。太鼓についても、単独で練習することはなく、必ずだんじり唄とともに練習し習得している。「若鮎会」は、毎週水曜日・金曜日の放課後、うめばち会館（地域の旧公民館）で一時間程度練習している。高学年になると、歌詞の意味も学び、感情を込めて歌えるようになる。また、通常の練習に加えて、春祭りや、だんじり唄コンクール前には、回数を増やして、集中的に活動している。

#### 【実施に当たっての工夫】

だんじり唄には、一人で歌う「ソロ」の部分と全員で歌う「ツレ」の部分があり、全体練習やパート練習を行う。これまでの先輩が歌った見本のカセットテープもあるが、微妙な部分はほとんどが口伝であるので繰り返しの練習が必要である。さらに、5・6年生がソロで歌う部分は、3・4年が唄うものと比べると内容が高度になるので長時間の練習が必要になっている。練習や指導に当たっては、木下勝也氏が中心に地域ボランティアで行っている。時間的制約・指導内容の難しさや多さを考えると、少人数での指導では困難な部分がある。そこで、学校支援コーディネータにより、かつての本活動体験者である地域のボランティアの方に補助していただいている。また、指導者の後継者育成のために学校と地域をつなぐ取組を今後推進していきたいと考えている。また、コーディネーターと学校が連携し、児童に指導者に頼るだけでなく、自ら進んで練習に取り組んだり、上級生が下級生に教えたりすることが、伝統として受け継がれていくような活動となるよう取組を進めている。

### 事業を実施して

活動を通して、だんじり唄やふるさとに興味をもつきっかけとなり、伝統を守る気持ちを養うことを期待している。また、各役割の中、個々の主体性と協調性を育てることもつながっている。子供たちからは、「声がどんどん出るようになり、語り終わるとすごく気持ちがいい」「いろんなことを積極的にできるようになった」と、自らの成長を実感する声が上がっている。伝統芸能を楽しむ心から生まれた自信や誇りを栄養に、健やかに育ってきている。

### その他

地域の祭りや福祉施設、伝統文化発表会への出演依頼が多く、地域の活性化や地域の誇りにつながっている。本活動が小学校卒業とともに終わるのではなく、中学生、更には大人になっても活動が続けられており、生涯学習の場にもなっている。



「だんじり唄」練習風景



平成26年度 淡路だんじり唄コンクール